

「野村日本割安低位株オープン」

ご参考資料 | 2019年2月13日

# 「野村日本割安低位株オープン」の運用状況について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村日本割安低位株オープン」（以下、ファンド）の設定から2019年1月末までの運用状況をご報告致します。なお、同期間において分配金実績はありません。

## 設定来のパフォーマンス

ファンド設定来の騰落率は▲15.4%と、TOPIX（配当込み）▲8.2%に対して7.2%ポイント下回る結果となりました。

日本株市場は足元、米中の貿易摩擦や日本企業の業績などの不透明感から下落基調にあり、ファンドのパフォーマンスは厳しい状況が続いています。

なお、過去1か月をみるとTOPIX（配当込み）が4.9%上昇する中、ファンドは5.5%と市場を上回る上昇となりました。

## 株価反発局面への期待

前述の過去1か月の動きからも見てとれますが、割安低位株は、株価の反発局面では市場を上回る特性が見られます。足元の日本株市場には不透明感が残っているものの、株価反発局面を迎えた時には、パフォーマンスの向上に期待が持てると考えています。

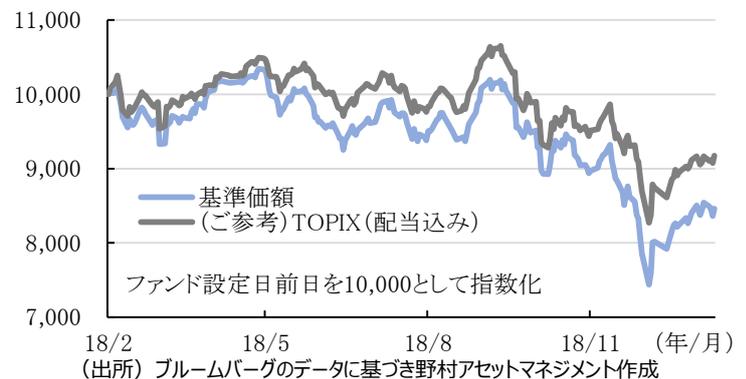
### 【ご参考】

右下図の年間騰落率をみると、割安低位株運用（試算）は、株式市場下落年から反騰に転じた年にはTOPIX（配当込み）を上回って上昇したことが見てとれます。

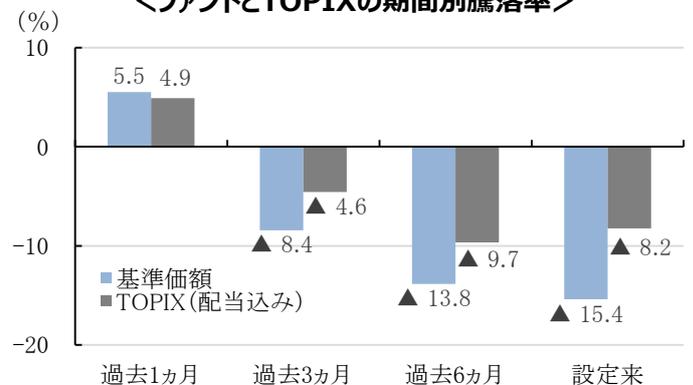
「割安低位株運用（試算）」は、ファンドのイメージをつかんで頂くため、ファンドと同様の運用の考え方に基づき、ファンド設定前の2018年1月まで算出した試算結果です。（ファンドと同じ運用管理費用（年1.134%）を控除しています。）野村アセットマネジメントが信頼できると判断したデータに基づいて行なっておりますが、過去のデータに基づいて算出した結果であり、将来の運用成果等を予測あるいは示唆するものではありません。また、実際のファンドの運用結果ではありません。ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。詳しくは次ページをご覧ください。

### ＜ファンドのパフォーマンス推移＞

期間：2018年2月23日（ファンド設定日）～2019年1月31日、日次

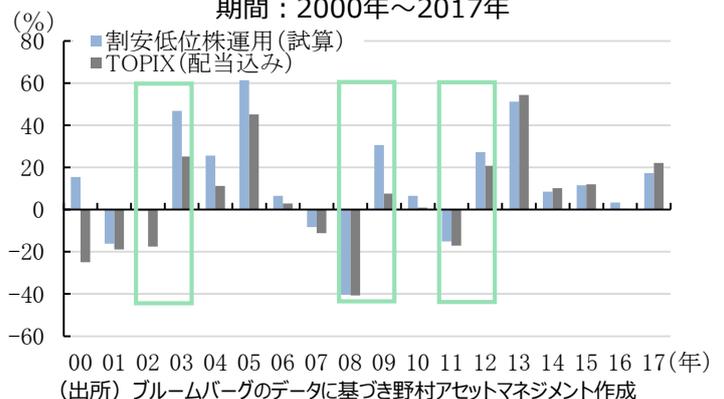


### ＜ファンドとTOPIXの期間別騰落率＞



### ＜割安低位株運用（試算）とTOPIXの年間騰落率＞

期間：2000年～2017年



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドにベンチマークはありません。

## 小型株指数に高い連動性

ファンド設定来の東証の規模別指数をみると、小型株指数は▲15.4%、大型株指数は▲6.6%と小型株指数は大型株指数を下回りました。2018年7月頃より大型株指数は優位に推移しましたが、ファンドは市場平均（TOPIX）に比べ小型株への投資比率が高いことから、小型株指数と同様に大型株指数を下回りました。

ファンドは低位株の中から、予想PER、実績PBRなどを用いて割安な銘柄を選別します。そのためファンドは、小型株が反発する局面では、それに連動することが期待されるのに加え、「割安」という特性も優位に働くと考えています。

## 〔ご参考〕低位株のアノマリー※

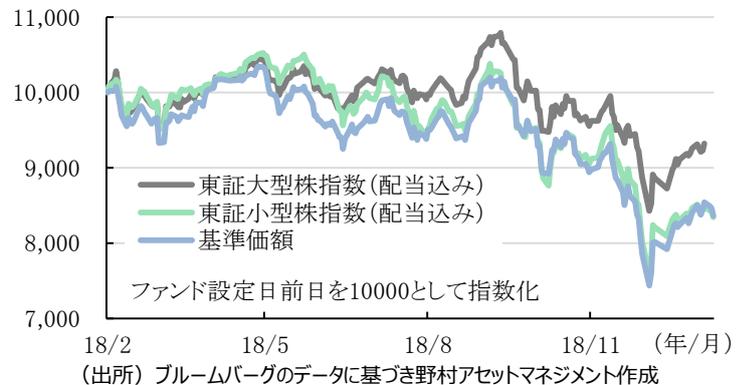
右図は低位株（東証1部の流動性下位20%を除外した中での株価低位25%、3ヵ月毎に見直し。）とTOPIXの月次騰落率（配当込み）を月別に単純平均したものです。これを見ると前半の6月頃まではTOPIXを上回る傾向がありました。

2019年1月は、TOPIXが4.9%の上昇に対し、低位株は6.2%の上昇となりました。

※アノマリー：明確な理論や根拠があるわけではないが当たっているかもしれないとされる相場の経験則や事象

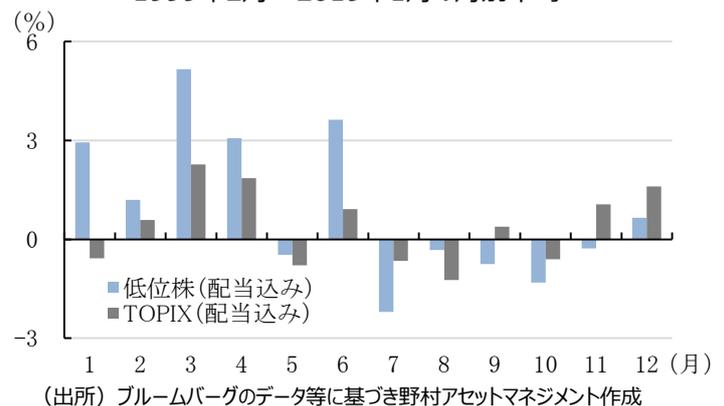
## ＜ファンドと東証規模別指数の推移＞

期間：2018年2月23日（ファンド設定日）～2019年1月31日、日次



## ＜ご参考：低位株の月別騰落率＞

1999年2月～2019年1月の月別平均



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドにベンチマークはありません。

今後とも「野村日本割安低位株オープン」をご愛顧賜りますよう宜しくお願いいたします。

### 割安低位株運用（試算）について

- 組入銘柄は、ファンドの「ポートフォリオの構築プロセス」に従って選定しています。
- 試算の主な前提条件は、以下の通りです。
  - ・ 東証一部上場銘柄から株価水準が低位50%の銘柄を選定。実績PBR、予想PERを用いて各銘柄の評価を行ない、上位200銘柄でポートフォリオを構築しました。
  - ・ 組入銘柄の投資比率については、時価総額比率とし、半年毎にリバランスおよび銘柄の見直しを行ないました。
  - ・ 割安低位株運用（試算）は、ファンドと同じ運用管理費用（信託報酬相当分の年1.134%）を控除しました。売買実行可能性や売買手数料、税金等の諸費用は考慮していません。また、野村アセットマネジメントのアナリスト情報、財務リスク分析等のデータは考慮していません。
  - ・ 株式組入比率は常に100%と仮定しました。
  - ・ 割安低位株運用（試算）のシミュレーションの期間はファンドの運用期間とは異なります。
- 予想PERの算出に使用する1株当たり利益は、FactSet予想値、前期実績値の順に優先して使用しました。

## 【ファンドの特色】

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- わが国の株式を主要投資対象とします。
- 株式への投資にあたっては、流動性があり、株価水準が低位\*である銘柄を対象として、財務リスク分析等による選別を行ない、実績PBR・予想PER等の観点から割安な銘柄を選定し、組入銘柄を決定します。時価総額等を勘案して投資比率を算出し、ポートフォリオを構築します。  
※株価そのものの値が小さいことをいいます。
- 当初ポートフォリオ構築後は、適宜、リバランスおよび組入銘柄の見直しを行なうことを基本とします。
- 株式の組入比率は、原則として高位を基本とします。
- 原則、毎年12月14日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。  
分配金額は、分配対象額の範囲内で、配当等収益等の水準および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。  
\* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## 【投資リスク】

ファンドは、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

## 【お申込メモ】

- 信託期間 2027年12月14日まで(2018年2月23日設定)
- 決算日および収益分配 年1回の決算時(原則12月14日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)  
または1万円以上1円単位  
(ご購入申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。)  
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額
- 課税関係 ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 【当ファンドに係る費用】

(2019年2月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.134%(税抜年1.05%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。  
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

## 《分配金に関する留意点》

ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。  
投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。  
分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

## ◆お申込みは

## 野村証券

商号:野村証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会:日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/  
一般社団法人金融先物取引業協会/  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

## ◆設定・運用は

## 野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会/  
一般社団法人日本投資顧問業協会/  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ 0120-753104

(受付時間)営業日の午前9時~午後5時

★インターネットホームページ★

<http://www.nomura-am.co.jp/>

★携帯サイト★

<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>

**【当資料について】**

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

**【お申込みに際してのご留意事項】**

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。